

令和8年3月10日開催

令和7年度 福島町議会定例会3月会議 一般質問答弁書

- 1番 藤山議員 ○防災インフラの重要性と回復力の強化について
- 7番 熊野議員 ○津波避難計画について
- 6番 木村議員 ○旧吉岡温泉の解体における防災広場の整備について
- 5番 平沼議員 ○第2青函トンネル構想の実現で未来につなぐ町づくりに
ついて

福島町

【一般質問答弁書】

質問者	1番 藤山 大 議員
質問事項	防災インフラの重要性と回復力の強化について

【町長答弁要旨】

藤山議員のご質問にお答えいたします。

当町においても日本海溝・千島海溝沖地震の発生に伴い太平洋沿岸の津波が想定されております。

町では、こうした事態に対応すべく津波避難対策計画を策定し、避難方法や避難施設での生活環境の充実を図るための各種事業を進めていくこととしております。

ご質問の町民の命を守る防災インフラの重要性及び回復力の強化に関する現状認識と将来展望に関して、災害発生時においては、「自分の身は自分で守る」ことの習慣づけが大事であり、そのためには防災に対する意識の高揚を図るとともに、町内会などの地域と連携した避難訓練が重要です。

そのうえで、防災インフラ等の整備が重要なものと位置づけ、町では、災害に備えた海岸整備として、道道岩部渡島福島停車場線の改良工事、同様に治水対策として、2級河川福島川の護岸改修を北海道と協力しながら進めるとともに、町単独による防災対策事業を計画しております。

次に、月崎ニュータウンに通じる道路整備に関してですが、先般のカムチャツカ半島付近で発生した地震による津波警報、津波注意報発令時に車の渋滞が発生したことについては、すでに町内会と情報共有

及び意見交換をしております。

なお、当日の渋滞の原因については、道路の形状も一因となっておりますが、大きな原因は各方面から避難車両が短時間に集中したことによるものと考えております。

この状況を踏まえ、この度の計画策定にあたり、月崎2においては月崎ニュータウン、月崎1・丸山団地の方々には、福祉センターや総合体育館などの三岳方面へ避難していただき、徒歩で避難される方は福島中学校への避難を推奨するなど、避難先を分散化することにより渋滞の緩和を図ることとしております。

なお、福島月崎幹線から観音橋3号橋までの道路整備や橋梁の拡張については、多額の事業費が想定されることから、現段階においては早期の対応は厳しいものと判断しております。

また、災害時に公共施設等のインフラに被害が発生した場合の復旧については、地域の再生における最優先事項の一つでありますので、被災された方の支援とともに、取り組んでまいります。

【一般質問答弁書】

質問者	7番 熊野 茂夫 議員
質問事項	津波避難計画について

【町長答弁要旨】

熊野議員のご質問にお答えいたします。

東日本大震災などの過去の災害から学ぶことは、災害時にはいち早く逃げる行動をとることであり、日々の生活の中で常に避難訓練等を通じての意識づけが重要ととらえております。

町では現在、津波避難対策計画を策定中ですが、この度の計画策定にあたっては、各町内会に入り啓発を含め地区毎の避難経路を協議し、津波浸水想定区域の町内会の方々と、夏季、冬季での避難方法として徒歩を基本としながらも、車による避難も推奨する内容としております。

昨年の7月に発生したカムチャツカ半島付近の地震及び12月に発生した青森県東方沖の地震の避難状況をみますと、一時避難場所や避難所などへ車で避難された方が大多数を占めております。

徒歩や車で避難する場合には、普段から最短避難ルートを確認するなどの意識づけが重要であり、町民の皆様へ自分の避難場所及び避難経路を認識していただくための啓発に努めてまいります。

「自分の身は自分で守る」を念頭に、町内会と連携を図りながら防災訓練などを通じ、地域の方々の防災意識の向上を進めてまいります。

また、避難路の確保については、現計画においては、既存の道路等の活用を基本としておりますが、国の防災・減災の制度などを活用しな

がら地域の方々の声を聴き、新たな道路整備も含め、「町民の生命財産を守る」を第一優先に、防災対策に努めてまいります。

【一般質問答弁書】

質問者	6番 木村 隆 議員
質問事項	旧吉岡温泉の解体における防災広場の整備について

【町長答弁要旨】

木村議員のご質問にお答えいたします。

旧吉岡温泉の跡地利用については、令和6年3月策定の福島町岩部地区等活性化基本構想の中で、外部からの集客を目的としたオートキャンプサイトの整備を計画しておりましたが、今、課題となっている吉岡地区の防災に対応する施設整備が優先と考え、災害時の一時避難場所として活用できる防災広場に変更しております。

また、旧吉岡温泉の解体には多額の費用が必要となることが想定され、防災広場とすることで、国の有利な財源を確保することも可能となります。

防災広場には、駐車スペースをはじめ、テントをかけて救護室などに利用できる防災東屋、災害時の炊き出しにも使用できる「かまどベンチ」などを備えた広場とし、完成後の維持管理費を抑えるため、コンパクトな施設整備を検討しております。

なお、災害発生時には、吉岡温泉と防災広場が連携することにより、屋内、屋外での避難者への対応が可能となるなど、防災拠点としての役割を果たすことができる施設整備を目指しております。

【一般質問答弁書】

質問者	5番 平沼 昌平 議員
質問事項	第2青函トンネル構想の実現で未来につなぐ町づくりについて

【町長答弁要旨】

平沼議員のご質問にお答えいたします。

当町は、永らく北海道側の青函トンネル工事基地としての歴史があり、今も全国のトンネル工事現場では、当町出身のトンネルマンが活躍しており、現在は、北海道新幹線の開業に向けた道内のトンネル現場で、新幹線が青函トンネルを最高速度で走ることを願って頑張っております。

第2青函トンネルは町民の悲願であり、夢でもあります。

こうした状況を踏まえて、私が平成27年10月に町長に就任したのち、平成31年2月に「第2青函トンネル構想を実現する会」を設立しております。

まず、一点目の町としての準備体制についてですが、本会の事務局は役場企画課に置き、構想に関する情報収集や関係機関との調整を行うとともに、北海道選出の国会議員や北海道などを含む関係機関に対し、要請活動を行っております。

また、近隣自治体との連携に向けた体制としては、渡島西部4町はもとより渡島総合開発期成会などと連携を図りながら進めております。

なお、現段階で町独自に影響調査や分析を行う考えはありません。

二点目の北海道・青森県との連携の具体像についてですが、令和5年7月に「第2青函トンネル構想実現に向けた青森県今別町推進会議」

が設立されたことから、今別町の阿部町長と連絡を密にし、設立準備段階から当町との情報交換等を行っております。また、設立総会や今別町推進会議が主催する講演会への出席のほか、議員連盟設立に向けた青森県及び北海道選出国會議員による勉強会へも今別町の阿部町長とともにリモート出席するなどしております。なお、本年4月には青森市内で意見交換を実施する予定となっております。

三点目の町民への説明と情報提供及び四点目の町の将来ビジョンとの連携並びに五点目の町としての主体的な姿勢についてですが、第2青函トンネルは国家プロジェクトとして位置づけられたうえで整備が進んでいくものと考えております。

まずは、今ようやく長年の夢が実現に向けて、スタート台に立てたのではと感じているところであり、町民の皆様のご理解をはじめ議員各位並びに実現する会の皆様方のお力をいただき、国や北海道及び国會議員並びに関係機関に対し、積極的な要請活動を展開してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご支援をお願いいたします。